

体育・保健体育研究委員会

1 研究テーマ

「今ある力をもとに、自ら運動の楽しさを味わい深めてい体育学習はどうあったらよいか」
～教師による意図的な"学び"の場面の設定と言葉がけの工夫～

2 研究内容（研究課題）

本年度の体育・保体研究委員会は、北信体育研究委員会と合同で研究を進めてきた。

○期 日 平成 21 年 11 月 18 日（水）	○期 日 平成 21 年 11 月 18 日（水）
○学 校 名 高山村立高山小学校	○学 校 名 高山村立高山中学校
○単 元 名 「ボールけり遊び」	○単 元 名 「バレーボール」
○授業学級 1 年生 (男子 15 名 女子 11 名 計 26 名)	○授業学級 2 年生 (男子 22 名 女子 15 名 計 37 名)
○授 業 者 岡沢 茂 教諭	○授 業 者 新井 孝之 教諭

研究の方法として、まず、子どもの「学び」に焦点を当てるために、研究会のあり方を問い直し、以下のような方法で研究を深めた。

(1) 日常の授業風景の撮影

日常の授業を参観することが大切だとわかっているにもかかわらず、なかなか時間がとれない。そこで研究委員が授業校に出向いて授業の様子を VTR で撮影する。もちろん、そのために特別な準備をしてもらう必要はない。日常の授業で十分である。

(2) 「気になる子」を中心に

教師にとって一番の悩みは、クラスの中にいる「気になる子」である。教師によって受け止め方は様々であるが、運動技能が低いとか、集団になじまないなどの特徴を持つ子である。動画を撮影する際は、その子とその周辺にいる子を中心に撮影することにした。これは、その子について参加者が話しをすることで、教師の悩みに寄り添うことになると考えたからである。また、その子の理解を深めることが、授業の改善につながると考えたからである。

(3) 視聴の視点

動画を見る際の視点として、以下の点を確認した。

- ① 技が出来るようになったとか、技が上手、下手ということではなく。その子の目線や発話、周辺の子とのかかわりを見て、表面的な行為の内側に隠れている、その子の思いや願いを読み取る。
- ② 授業者を「評価」しようとするのではなく「理解」しようとする。

(4) 参加者が順番に短時間で発言する

一つの動画を見終わった後、参加者は順番に意見を言う。その際、発言力のある人が長い時間話すのではなく、出来るだけ短時間で、参加者全員が話すことを大切にしたい。このようなカンファレンスを通して、自分が出来なかった気づきや見方を学ぶことが出来ると考えた。